

◆ *Furusato Obara Club*

Take Free [0円]

# おばらのじかん

— 第3号 —

2014 Autumn&Winter

巻頭  
特集

自然と共に育まれた文化と芸術、  
そこには小原らしい暮らしがあります。

## おばらのしぜん

[イラッシャイ小原へようこそ]

[マンガ] イカくんキンちゃんの小原日記

[小原いろいろ情報]

ほっこりしぜんと共に



おばちゅう卒集まれ!

[www.facebook.com/obachuu](http://www.facebook.com/obachuu)

# おばらの おしぜんの

里山おばらは  
多様な自然と共に  
文化や芸術を  
発展させてきました。  
自然とともに  
おばらの暮らしが  
あります。

## しぜんのあじわい

おばらのしぜんは、肌に触れ、目に見えるもの  
だけではありません。春は山菜にたけのこ、  
夏は畑のキュウリやトマト、そして秋には栗こ  
はん、柿やきのこ、自然薯など、舌で味わうこ  
とのできる、おばらのしぜんは何と共に自然  
な生き方を教えてくれます。



へぼめし…このあたり  
では、クロスズメバチの  
ことを「へぼ」といいま  
す。お祭りでだされるへ  
ぼめしは、地域の人にと  
って年に一度の楽しみで  
す。ローヤルゼリーたっ  
ぷり!?のごはん。

栗ごはん…庭に落ちた  
栗を拾って、栗ごはん  
にしてみました。最近  
は、イノシシとの競争で  
すが、秋になるとほこ  
この豊かな香りにさそ  
われて、食欲がすすみ  
ます。

## おばらの生き物

おばらには、いろんないきものがいます。おば  
らで暮らすと動物と接する機会もよくあり、  
最近ではイノシシが山から降りて畑の被害もチ  
ラホラ。捕まると、近所のみんなでわけあつた  
り、川では川魚を釣つたり、子供の頃なら  
カブトムシやトンボや  
蝶を捕まえたり。秋  
には虫の音で和んだ  
り。おばらでは生き  
物たちが暮らしを彩  
ります。



大きな動物は、イノシシ、キツネ、タヌキ、アナグマ、マミヤ  
ヌキ、ノウサギ、イタチ、テンリス、ムササビ、ハクビシ  
など。鳥では、キンヤドリ、コジュケイ、カラスなど、  
ヒワやツグミなどの渡り鳥もやっています。魚では、アマ  
ゴ、アユ、コイ、ウケイなど。カエルやヘビもよくみえます。



# おぼらの植物

年に2度、春と秋に咲く四季桜で有名なおぼらですが、他にもたくさんさんの植物があります。豊田市になる前に「村の花」だったササユリは、小学生が保護活動をしているほか、和紙の原料となるミツマタなど多様な植物は小原の文化や暮らしの一部となっています。



北部山地にはホクテアザミ、イワカガミ、イワショウブ、ミスギク、ヌガヤなど、東海地方に特有の植物群としては、ウンヌケ、シテコブシ、カサクレマ、ススカアザミ、ヘビノボラス、ヤマヒヨウタンボク、フタムキアザミ、スルカアナンシヨウなど、暖地性の植物としては、タブノキ、ヤマイバラ、フユザンシヨウ、ツルグミ、ヤブニッケイ、リンボク、イタヒカズラ、ナキリスゲ、アオネカスラ、ニオイタチツボスミレ、モチツツジ、ヤブツバキなど、また、林業資源の植物としては、スキ、ヒノキ、アカマツ、アイグロマツ、モミ、ヒメコマツ、アヲカン、シラカシ、ツクバネカン、ウラシロカシ、コナラ、アハキ、クリ、アカシデ、ホオ、ヤマザクラなどがあります。

# 小原地区マップ



おぼらのしぜんは、歴史とともに受け継がれ、今の私たちが暮らす山河をつくってきました。わたしたちが子どもの頃、お爺さん、お婆さんから聞いた小原の民話にも、おぼらのしぜんの面影がたくさん出てきます。民話には不思議なお話も多く、人間には測れないしぜんの豊かさや包容力を感じます。民話とともに、おぼらのしぜんの豊かさや人間本来のしぜんを敬い、しぜんと共に生きる気持ちを新しい世代にも伝えていきたいですね。

- ◆動物に関する話：刈萱岩下、平岩の「タカノツメを取ったサワガニ」、三ツ久保、北の「月の入峠の悪ギツネ」、松名の「獣界の王みそささい」、築平の「川坊主」など
- ◆植物に関する話：北の「四季桜の由来」、「大樫」、「血桜」、「李の「しば神様」」、大草、永太郎の「二本松峠」、「鍛冶屋敷の「二本木物語」」など
- ◆石や岩に関する話：平若刈萱の「おしろい岩さん」、大草の「家康公の腰掛け石」、川下の「地獄谷」など
- ◆水や川に関する話：北大野の「教田淵」、「博侯の「恋する弁財天」」、日面平畑の「たまぎんしさん」など
- ◆山に関する話：大平の「大平城」など



# 由来する地名

おぼらの地名には、しぜんに由来するものもたくさんあります。そのなかから、いくつかとりあげてみました。

- ◆タウ：山の向こうへ越す鞍部。恋田和、越田和
- ◆ノゴシ：鞍部を越えたところ。乗越
- ◆ヒラ、タイラ：山裾の緩い傾斜地。市ケ平、大平
- ◆ノ（山裾の緩い傾斜地）+サワ（沼地）：大野沢
- ◆ノタマタ：野獣などの水浴する湿地。野多、野田ケ平
- ◆日面：南斜面の日当りのよい土地
- ◆ソシテ：後背部。日の当たらない土地。反手
- ◆長根、カンバカソラのネヤソラ：高いところ
- ◆オチ：低いところ。下落
- ◆クホ、クゴ、クテ：水稲耕作の容易な湿地。久保、大久後、久手
- ◆ホラ、サコハサマ：湿地の周囲で入り組んだ地形。住居を構えるのに都合がよい場所。大洞、市迫
- ◆ソウレ：焼畑に由来。峠ヶ蔵連
- ◆コナ：焼畑の地力が衰えて荒地になった場所。粉野
- ◆藤敷のヤブ、中切のキリも同じ意味
- ◆ナギ：大雨によつて山が崩れたこと。崩れ
- ◆ギマエ





### 折々の花に囲まれて

大平にお住まいで、長年おぼらの植物に親しんでみえる永井誠さんが中心となって、大平わくわくワークシヨプの刊行により、小冊子「カエイジ湿地の植物たち」が発刊されました。小原の植物について、永井さんにお話をうかがいました。

「野良仕事で汗を流す合間に、里山を散策するのは、極上の楽しみです。折々の花をすく見に行けるのは、田舎に暮らす魅力のひとつです。春の始めには、シテコフシの可憐な花が、田仕事の始まりを告げてくれます。

シテコフシは世界でも貴重な植物です。私の知る限り、小原では「カエイジ湿地」だけに自生します。保護活動のほか、自由な参加で、初心者にも楽しい植物観察会を、年2回開いて、みんなで自然に親しんでいます。この小冊子「カエイジ湿地の植物たち」を片手に湿地を散策すると、さらに楽しいと思います。

今では稀少になった珍しい植物が、小原にはたくさんあります。側溝などに芽生えてしまつてやがて枯れてしまう草を助け、庭に植えておくと、毎年花を見せてくれるのも、田舎暮らしの楽しみのひとつです。」

T.I



ポートランドから  
良い自然環境を求め小原へ



四季桜

小原  
一本



豊田市長市  
小原支所



一本木  
(今はあり)

しば神



しば神



しば神



### 自然と向き合え、家族の夢が 叶う場所、それが小原でした。

薪ストーブの火を満足げに見つめ、そう語る羽原紀行さん。

9年前、両親と同居する平戸橋町から、家族の夢であった二軒家をかまえるべく色々な場所を探し、小原の「つくしヶ丘」に決めた。一番の決め手は「自身の夢であった、「薪ストーブのある家」が実現できること。

「燃料の薪は、近所の方の山から頂けるので助かっていますし、希望のライフスタイルを実現できる小原に満足しています。」と笑顔のご主人。寒さが厳しさを増すこの時期だが、家の中のほんわかしたあたたかさは、とても優しい。薪ストーブの暖かさは、なんだか家族の笑顔に似ている気がした。

H.Y



小原には、豊かな自然があり私たちに様々な

### 小原の自然と育つ

## ポートランドから 良い自然環境を求め小原へ

アメリカの東海岸ポートランドから小学2年の娘、瑠梨ちゃんと親子3人で小原に来て1年が経ち、ようやく落ち着いてきた山内英美さん家。

これから子供の大事な時期を家族のいる日本で育てたいと帰国し、自然環境の良い小原に住むことにした。小原でビックリしたことは、子供達が集まるとすぐゲームを始める。でも10分もすると「飽きた」とみんな外の田んぼへ行き「ドロケー」「鬼ごっこ」が始まる。

細い蛙を駆け抜ける足の早いこと！下校時は大人が汗かく山道で、ランドセル背負って山や野原に入り込み、棒切れや花を摘んで道草しながら帰ってくる。子供の中には花の名前や花の咲く時期など良く知ってる子もいる。

学校帰りに道でへびを見つけても、みんなで覗察している。夏には川を石でせき止め(子供達は「温泉」と呼ぶ)日中網で魚を捕ったりして遊んでいる。イノシシの被害にあった農家の人が「アイツらも生きなさいかんでな」と必ず最後に口をそろえて言うのも、こういう自然と共に暮らしているせいだと思える。

英美さんは小原の自然はポートランドと比べ動物や鳥、昆虫、木や草花の種類が圧倒的に多いと言う。今は週1回子供達に英会話を教え、最近では裏山へ「山探検」と言って、花や虫の名前、「ここは危険」とか「これ何だ?」とか山歩きをしながらの自然体験を通じた教室をしているとのこと。

M.T



## 四季折々～おばらのしぜん～



## 小原の自然と育つ

小原には、豊かな自然があり私たちに様々な恵を与えてくれます。それを最大限に生かすことを教えてくれたのが工芸家藤井達吉先生で、その代表が小原和紙工芸(以下、小原和紙)です。和紙の伝統は全国各地に残っていますが、芸術表現の手段として和紙を漉いているのが小原和紙の特徴です。

小原地域の全学校には、小原和紙制作の設備が揃っています。子ども達は、それらを活用して毎年小原和紙を制作し、身近に芸術文化を体験しています。中には、原料栽培に取り組み学校もあります。また、普段の何気ない通学や学校生活においても、草花や昆虫などにふれ、鳥のさえずりや動物の鳴き声を耳にし、イノシシ被害のポヤキを聞くなどして、四季折々に自然の摂理を肌で吸収しています。この様な恵まれた環境で学校生活を送ることが出来るのは、世界中で小原地域だけたと言えます。小原の子ども達は、世界幸甚な教育を受けていると私は思います。

R.T



# イラストサイ 小原へようこそ

**最近**、小原にも洒落たデザイナーの家が建ち始めた、そんな新築の1軒が塩田ファミリーの新居だ。奥さんの素直さんは10月に名古屋で初めての個展を開いたという「手袋ミト」の作家さんだ。豊田に勤める旦那さんの淳(あつし)さん、2歳になる恵太郎くんの3人の家族。縁もゆかりもなく、親しい知人がいるわけでもない小原に「家」を持つ。そんな塩田ファミリーに話しを聞いてみた。

もともとご夫婦は二人とも関西の人で、仕事の関係で愛知県に来たとのこと。小原に来る前は名古屋で暮らしていて、子供が出来たのを機に家を建てることに、条件は「緑に囲まれてのんびり過ごせる所」、そして最初に紹介を受けたのがココだったという。もちろんすぐ決めた訳ではなく、もつと遠い山の中とかニュータウンとかいろいろ見てまわった結果、最初の所に落ち着いた。

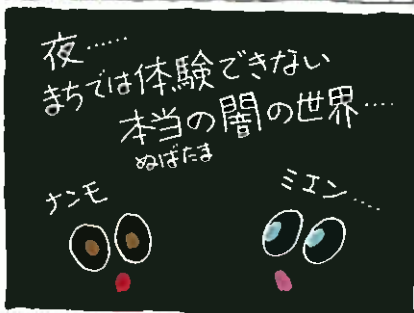
素直さんはのどかでノンビリした田舎だけど、どこか明るい雰囲気があるところが気に入って、そして淳さんは趣味の木工を気兼ねなくでき、ほど良いのどかさにはほととできる安心感がある、それが小原に決めた理由だという。

暮らし始めて半年も経っていないが、小原でそれぞれが自分のライフスタイルを大切にしながら子育てしている同世代の知り合いもでき、少し年上の子供が小さな子供の面倒をみたりと、みんなで子育てするような雰囲気があり、子供がのびのびと育ってくれるように思える...と話してくれた。

小原に暮らして感じたことは、ラフだけど深い付き合いが出来るコミュニティがあり、みんなで一つのことをやるエネルギーが息づいている...「ほど良いです。」



M.T



**小原 スポット たまぎん 温泉!**

昔の話、日面に、銀次じいさんという、いまでも血色がよく、健康そうな翁がいた。その様子に近隣の者がいぶかしがって訳をきくと、日面の矢作川に湧く温泉を見つけて、それに毎日入っているからだという。温泉のことをだれにも話さず、だまって一人で楽しんでいた。それからは「たまぎんじいさん」と呼ばれるようになったとか。矢作川河川敷付近から自然に湧き出しているこの温泉は、日本では数か少なく、療養泉とされる貴重なラドン温泉。以前は個人の所有のため、限られた人にしか利用されなかったが、今では、寿楽荘の泉源として使用され、気軽に味わうことができ「たまぎんじいさん」という民話が残る平畑温泉を寿楽荘で味わってみてはいかがだろうか。

R.T



おばら地区の物件を探すなら!

豊田市 空き家バンク

[www.city.toyota.aichi.jp/akiya/](http://www.city.toyota.aichi.jp/akiya/)

小原の情報ページ

『おばちゆう卒』是非登録してね!

[www.facebook.com/obachuu](http://www.facebook.com/obachuu)

**◆ 小原いろいろ情報**

おばらイベント  
「1月23日カンゾカシキ」

カンゾカシキとは和紙作りの工程で、原料となる楮の皮を蒸し剥ぎ取る工程。参加自由(和紙のふるさと) 0565(65)2151

**小原に住もまい、ニユース!!**

【住宅取得費補助金】  
小原地区で新たに住宅を取得する場合、要する経費の一部を補助します。  
補助金上限  
土地50万円、建物50万円  
(10分の1を補助)  
出増築は対象外

【空き家再生事業補助金】  
市が運用する「空き家情報バンク」の登録物件に入居する際の修繕経費の一部を補助します。  
補助金上限100万円  
(10分の8を補助)

※詳しくはおばちゆう卒のフェイスブックページまたは豊田市役所小原支所まで

## STAFF 小原白亭感 編集後記

10年を迎えた小原暮らしです。人の営みとその土地に育まれ、地もおしみなく恩寵を与えてくれる♡都会にいてはわからなかった自然と人がおりなす様々な山里の姿に、感激進行中の日々、喜びと感謝の毎日です!

M.Y (今号編集長)

やっぱり小原は「和む」、それは人と人の間に「自然」という人工ではない世界が常に背景にあるからだと思う。自然を追い出した都市に安らぎはなく、便利さは人の力を失わせていく、小原はそれを取り戻してくれた。感謝。

M.T

小原で生まれて57年。学生時代に数年外に出ていたが、実家に戻って就職するものと、漫然と思っていた。さて、今Uターン促進事業に参加していて、地方で暮らす事の魅力は?リスクは?と様々に考えてしまう中年期のこの頃...

K.Y

小原は、豊田市街や名古屋の通勤圏で、都市部に近い里山としてバランスの良い距離にある。ここで暮らす小原の子ども達は恵まれていると思う。私のようなサラリーマン家庭でも、肩肘張らずに世界に誇れる教育を受けられるのだから。

R.T